

2023 年 4 月 12 日

経済地理学会長
松 橋 公 治 殿

経済地理学会賞選考委員会
委員長 山 崎 朗

第 11 回経済地理学会著作賞 受賞候補者の推薦

経済地理学会著作賞選考委員会は、経済地理学会著作賞の選考手順にもとづき、以下の通り候補者を評議会に推薦することを決定いたしましたので、ここにご通知いたします。

選考結果

候補者名：福本 拓

受賞著作：『大阪のエスニック・バイタリティ―近現代・在日朝鮮人の社会地理―』（京都大学学術出版会、2022 年、244 ページ）

受賞理由：

本書は、2017 年に京都大学に提出された博士学位請求論文をベースとして、その後に公刊された論考および本書のために書き下ろされた第Ⅰ章と第Ⅸ章を加え、在日朝鮮人の居住地区である大阪・猪飼野地区の形成過程およびその変容について動態的に分析した著作である。本地区は、戦前の日本による朝鮮併合およびその解体過程において、公的な支援なしに生活が営まれた地区であり、社会的矛盾が集約されたエリアである。その一方で、時間の経過とともに、社会経済の変化に対応して、地域の活力を創出してきたエリアでもある。

第Ⅰ章、第Ⅱ章では、研究史の総括と本書の課題および着眼点が示されている。つづく、第Ⅲ章においては、東京、大阪のセグリゲーション分析を行ったのち、本書の本論となる第Ⅳ章から第Ⅵ章では在日朝鮮人の集住地区の変遷を時期的に丁寧分析されている。第Ⅶ章ではエスニック空間論が展開され、第Ⅷ章では韓流ブームにともなうエスニック空間の変容が、そして第Ⅸ章では、本書の議論の整理とデイビッド・ハーヴェイの空間的回避の概念を援用したセグリゲーション存続についての仮説的説明が試みられている。土地取得と資本移動の観点から、エスニック空間再編を明らかにしようとした点にも、本研究のオリジナリティが認められる。

以上より、エスニック・バイタリティについて、丹念な実証研究によって解明した本書の公刊は、経済地理学の発展に大いに寄与すると考えられる。よって、本書は第 11 回経済地理学会賞を授与するにふさわしい著作であると、経済地理学会著作賞選考委員会として判断した。

経済地理学会著作賞選考委員会：山崎 朗（委員長）、荒木一視、竹中克行、作野広和、初澤敏生